

広島県 商工会地域

中小企業景況調査報告書

第181回

令和7年7～9月期 実績

令和7年10～12月期 予測

令和7年9月

広島県商工会連合会

中小企業景況調査の概要

1. 調査趣旨	この調査は、中小企業の景気動向を総合的に把握するため、全国の商工会、商工会議所、中小企業団体中央会の3団体内の約19,000企業を対象に四半期ごとに実施されている。調査結果は(独)中小企業基盤整備機構で集約・分析・公表され、中小企業施策立案等の基礎資料として活かされるものである。 広島県商工会連合会では、県内商工会地域の最新景況データを解析、報告書に取りまとめ、商工会の経営改善普及事業が効果的に実施されることを目的として、この報告書を公表する。
2. 調査対象	(対象地区) 県内15商工会 祇園町、広島東、江田島市、呉広域、佐伯、安芸津町、広島県央、三原臨空、大崎上島町、沼隈内海、福山北、福山あしな、神石高原、三次広域、備北 (対象企業) 231社 製造業55 建設業44 小売業67 サービス業65
3. 調査方法	経営指導員による訪問面接調査
4. 調査期間	令和7年7月～9月期実績、及び令和7年10月～12月期見通し
5. 調査時点	令和7年9月1日

6. DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
- 各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
- DIがプラス(+)なら……………強気(楽観)、上昇機運
- DIがマイナス(-)なら……………弱気(悲観)、低下機運
- 例えば、売上高で回答割合が、増加50%、不変30%、減少20%の場合、 $DI = 50 - 20 = 30$ となり、全体としての経営者の強気(楽観)度合いを表している。
7. 表記基準 変化の動向(改善、悪化など)を解説する場合に用いた表記基準は次のとおり。
- 「横ばい」 0を基準に±2ポイント未満
- 「小幅、やや」 0を基準に±2～8ポイント未満
- 「大幅、大きく」 0を基準に±8ポイント以上
8. その他 この集計値は、全国商工会連合会が提供する全国集計を基に、広島県商工会連合会の集計書式に収めて編集したものである。
- (参考) 全国及び広島県内の経済動向について、その他機関による調査資料
- (独)中小企業基盤整備機構 (3団体を含む全国版報告書)
https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html
 - 中国経済産業局 (中国地域の経済動向)
<https://www.chugoku.meti.go.jp/toukei/keiki/keiki.html>
 - 広島県 (広島県経済の動向)
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/75/1244079054510.html>

産業全体の概況

1. ポイント ※(独)中小企業基盤整備機構「第181回中小企業景況調査(2025年7-9月期)のポイント」より

・業況判断DIは、2期ぶりに低下

全産業の「業況判断DI(前年同期比)」は、前期(2025年4-6月期)から0.5ポイント減(▲16.8)と2期ぶりに低下。産業別では、小売業で0.6ポイント増(▲26.2)と上昇し、サービス業で横ばい(▲11.1)、一方、製造業で1.7ポイント減(▲19.6)、卸売業で1.3ポイント減(▲15.1)、建設業で0.9ポイント減(▲9.4)と低下している。来期見通しは、建設業を除くすべての産業で上昇している。

・小売業の売上単価・客単価DIがプラス圏内に留まる

「売上単価・客単価DI(前年同期比)」は、小売業が2期連続してプラス圏となった。他方、「原材料・商品仕入単価DI(前年同期比)」は、プラス幅が縮小したものの、「売上単価・客単価DI(前年同期比)」に比べ高水準となっており、いずれの産業も高止まりの状態が続いている。

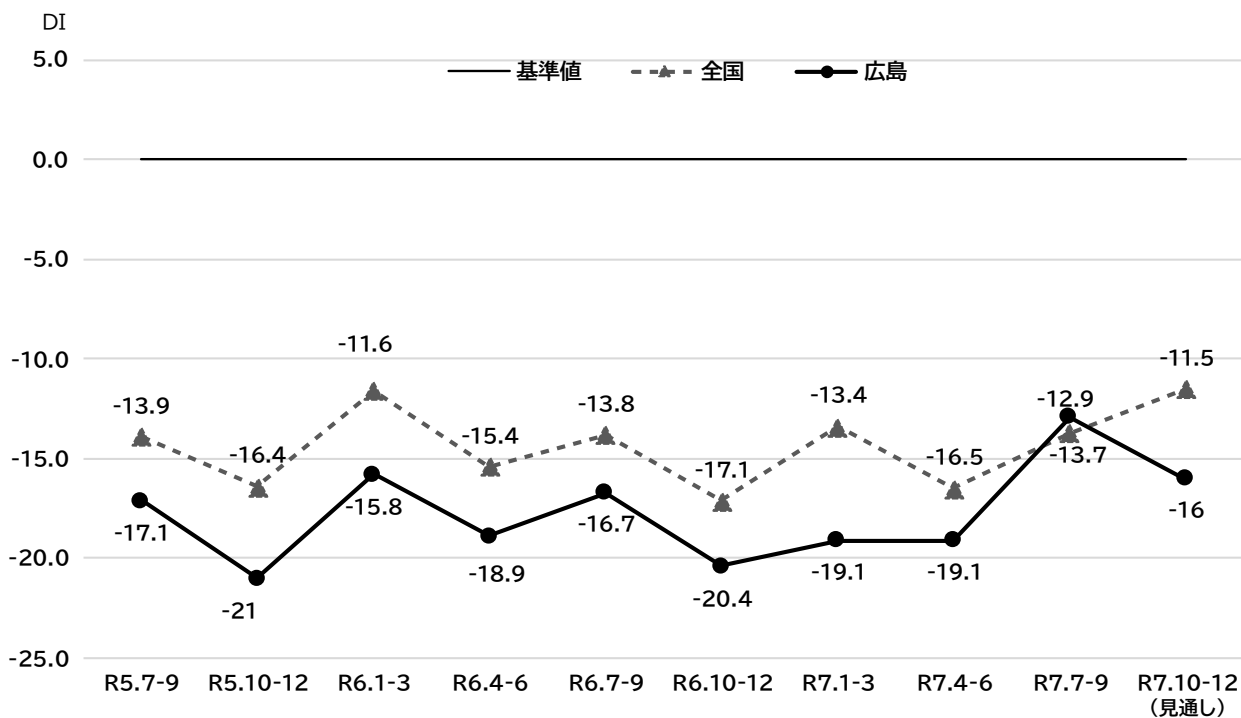
・建設業の人手不足が強い

建設業の「従業員過不足DI(今期の水準)」を2010年以降の7-9月期で5年ごとに見ると、すべての地域において人手不足感が強まっている。また、経営上の問題点を見ると、従業員の確保難が上昇しており、直近では材料価格の上昇に次ぐ2位となっている。

産業全体の概況

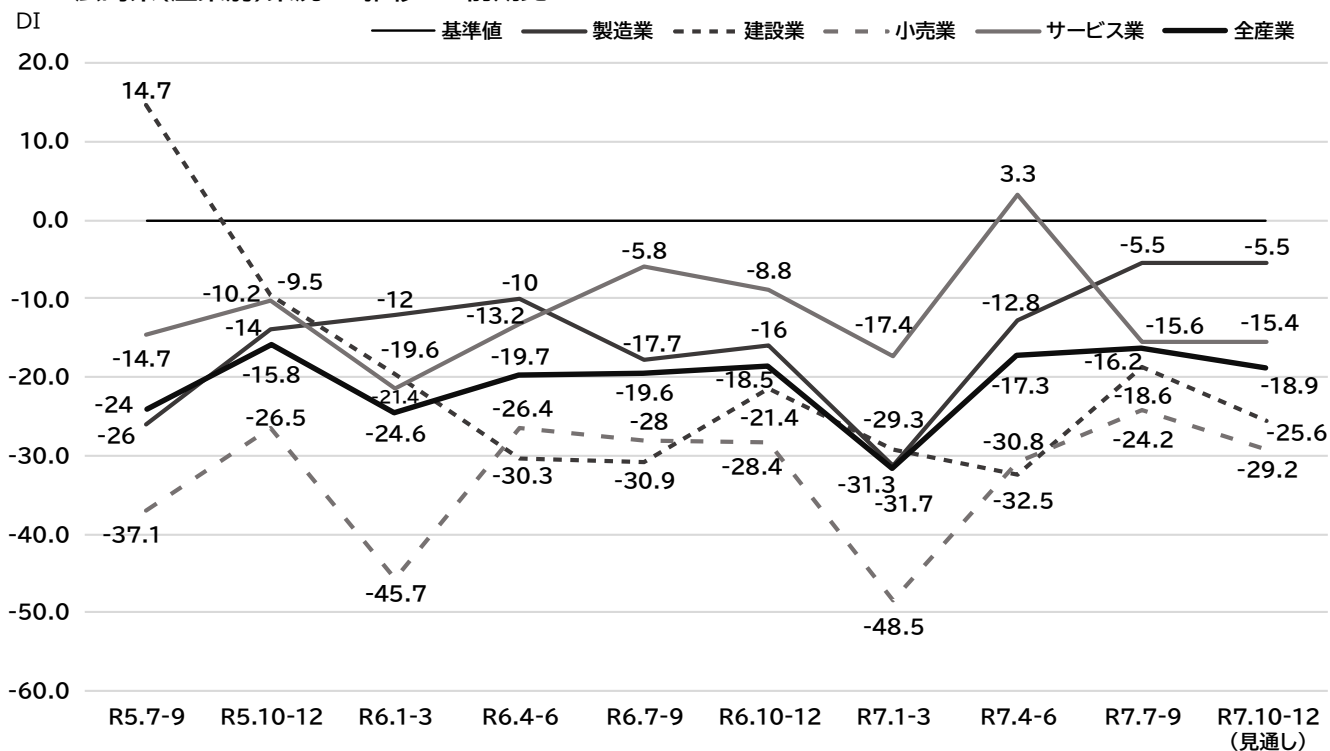
2. 広島県と全国(全産業) ※商工会、商工会議所、中小企業団体中央会の3団体データを含む。

広島県と全国(全産業)業況 DI推移 -前期比・季調済-



3. 広島県(産業別) ※商工会地域のみ

広島県(産業別)業況 DI推移 -前期比-



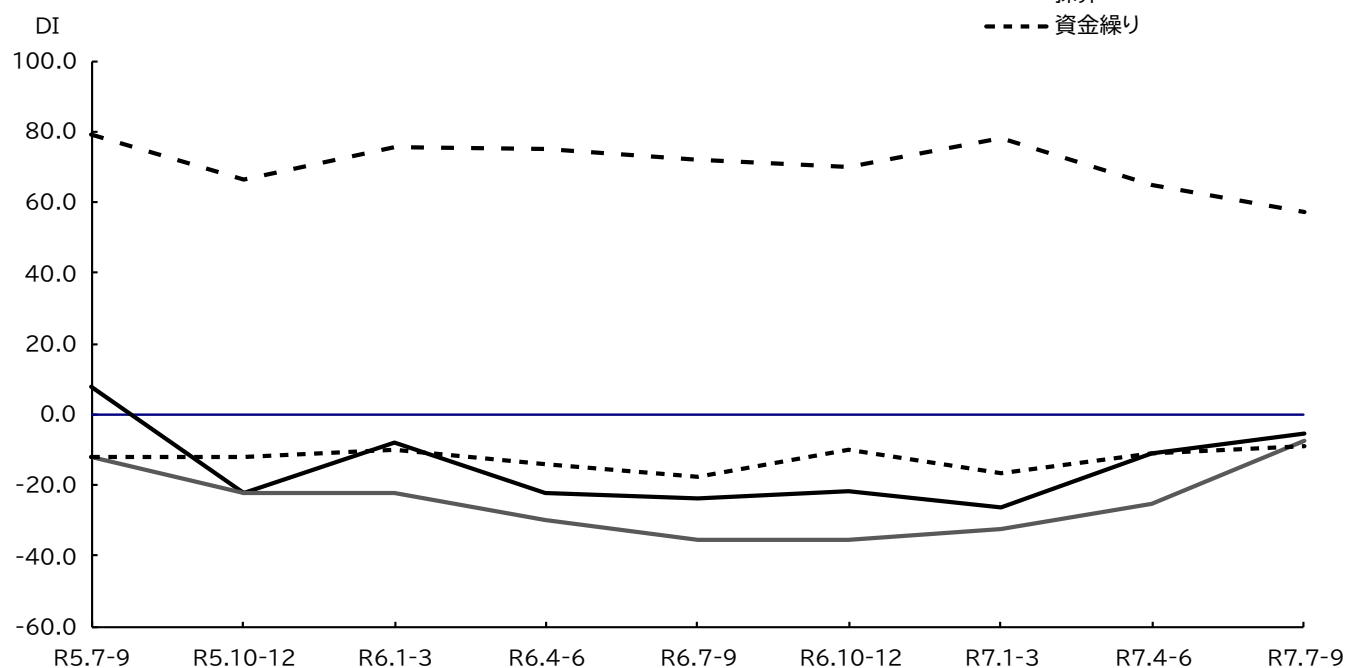
製造業（商工会地域）

1. 主要景況項目の推移 -前年同期比-

製造業 DI	(前期)	(今期)		(来期見通し)	
主要項目	R7.4-6	R7.7-9	前期との比較	R7.10-12	今期との比較
売上額	-10.9	-5.4	↗	-20.0	↘
原材料仕入単価	64.8	57.4	↘	61.1	↗
採算	-25.4	-7.3	↗	-10.9	↘
資金繰り	-11.1	-9.1	↗	-9.0	→

広島県 製造業

主要景況項目の推移 -前年同期比-



..... 企業のコメント

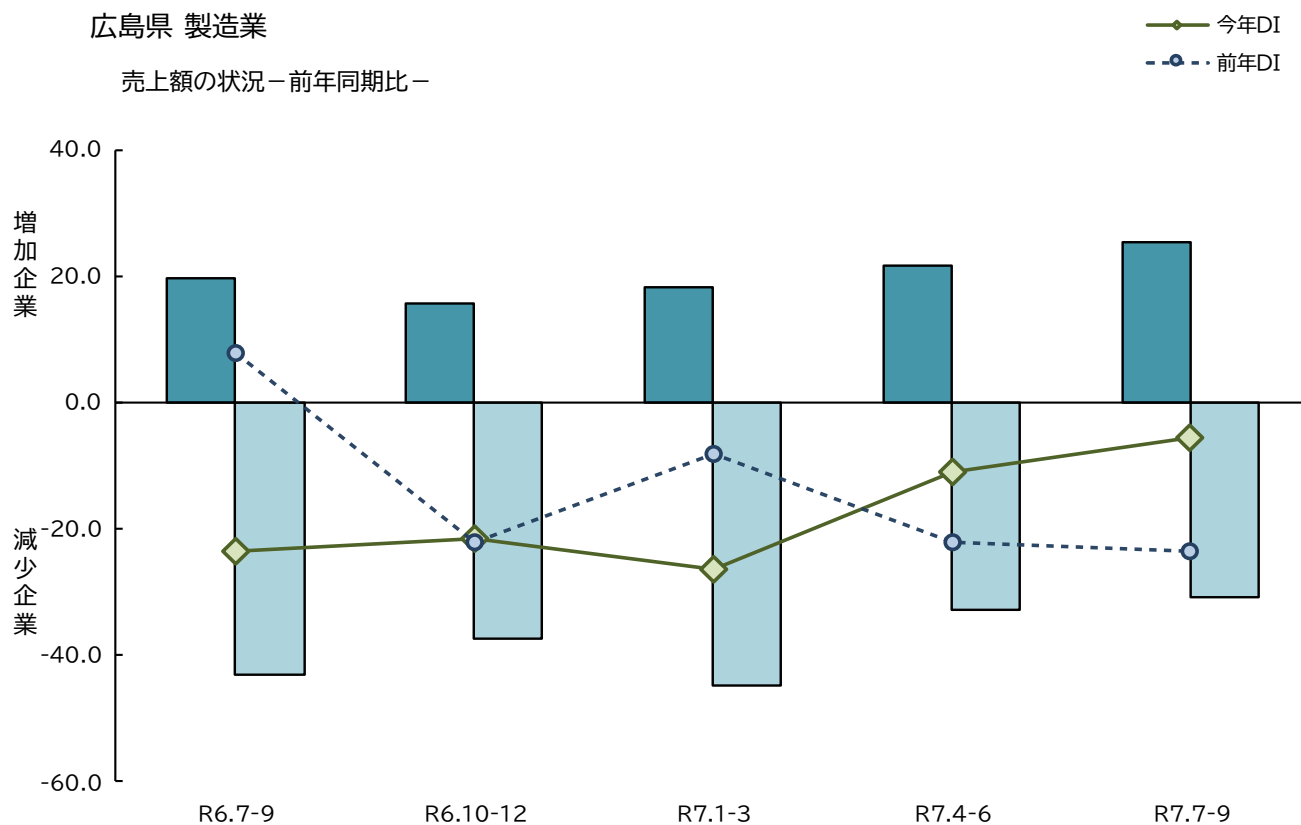
- ・ 前年は自動車関連の不正問題に伴う生産台数の大幅減少により弊社売上額もかなり減少した。今期は前年に比べて好転する見込みではあるが、来期はトランプ関税や自動車生産見通し悪化から厳しい状況が考えられる。
- ・ 現在はほぼ同じくらいの受注量ですが、来期以降は減少すると話はきいています。先の見通しが予想出来ないくらい不安定なのではないかと思います。
- ・ 暑さにより消費需要減少。お盆特需も減少した。原材費は落ち着いているものの、資材費の高騰が懸念される。売価の値上げがどこまでできるか心配だ。
- ・ 一番は原料の仕入単価の上昇で製造に支障をきたしている。特に夏場の在庫管理と従業員の配置に悩む。
- ・ 牡蠣の原材料費等は高い水準で推移。韓国産などの流通拡大を背景に安価な価格帯のものも増加傾向にあり、利益率の悪化が懸念される。
- ・ 従来からのメイン取引先からの受注量は若干減少気味であるが、その他の取引先が比較的安定しており、業績は概ね安定して推移している。原材料価格の上昇が順調に加工単価に反映できるかどうかが今後の最大の課題。
- ・ 原材料、光熱費、ガソリン代などの値上げの影響もあり、売上が上がっていても、利益につながっていない。商品の値上げは頻繁には出来ないのと、新しい商品も製造しづらい。

製造業（商工会地域）

2. 売上額(加工額) -前年同期比-

広島県 製造業

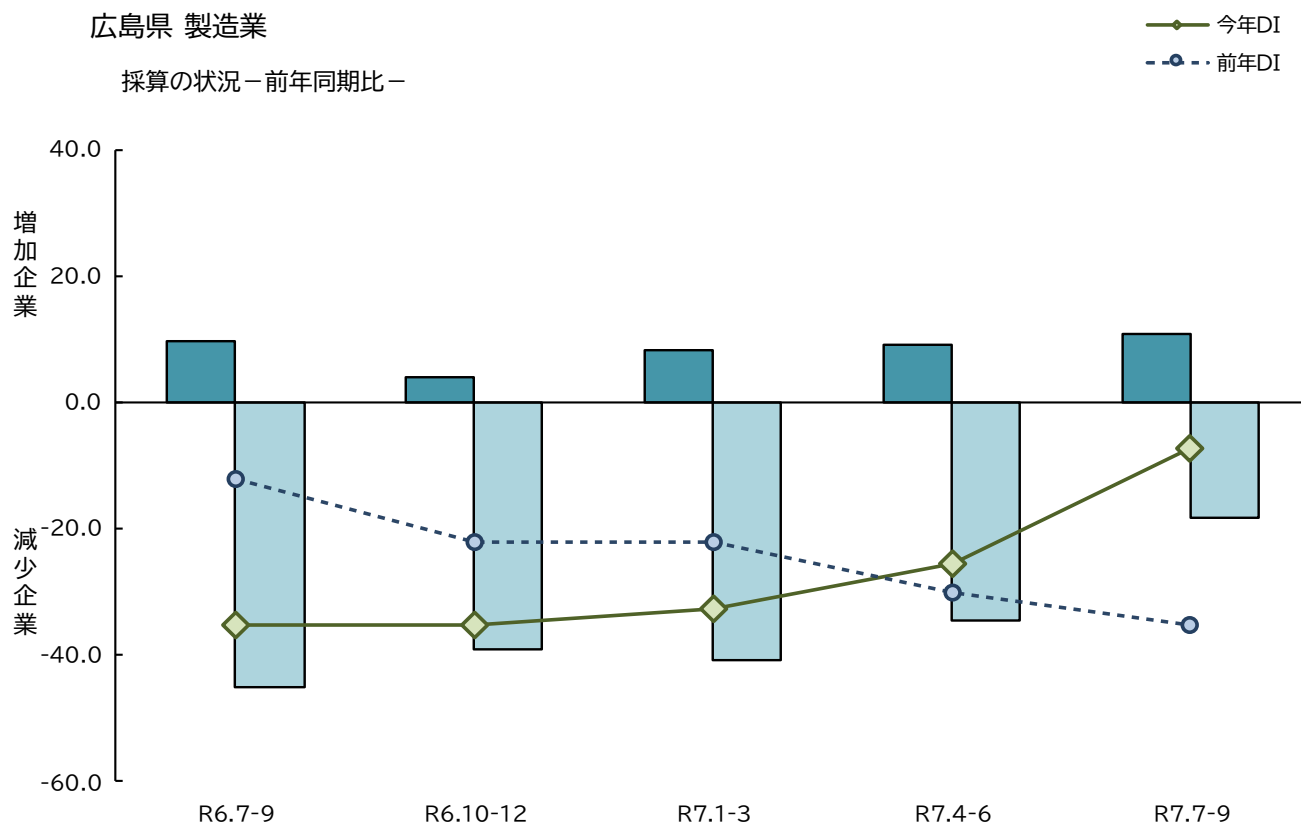
売上額の状況－前年同期比－



3. 採算(経常利益) -前年同期比-

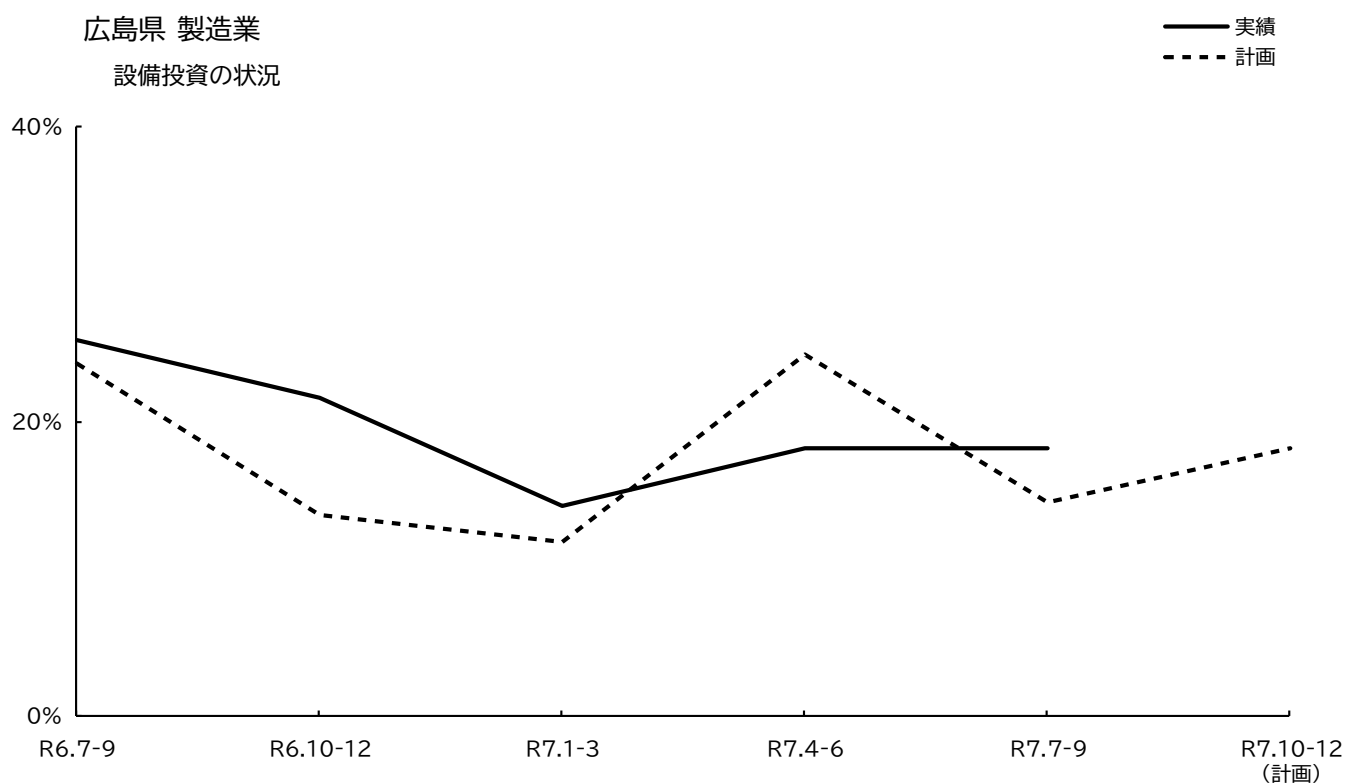
広島県 製造業

採算の状況－前年同期比－

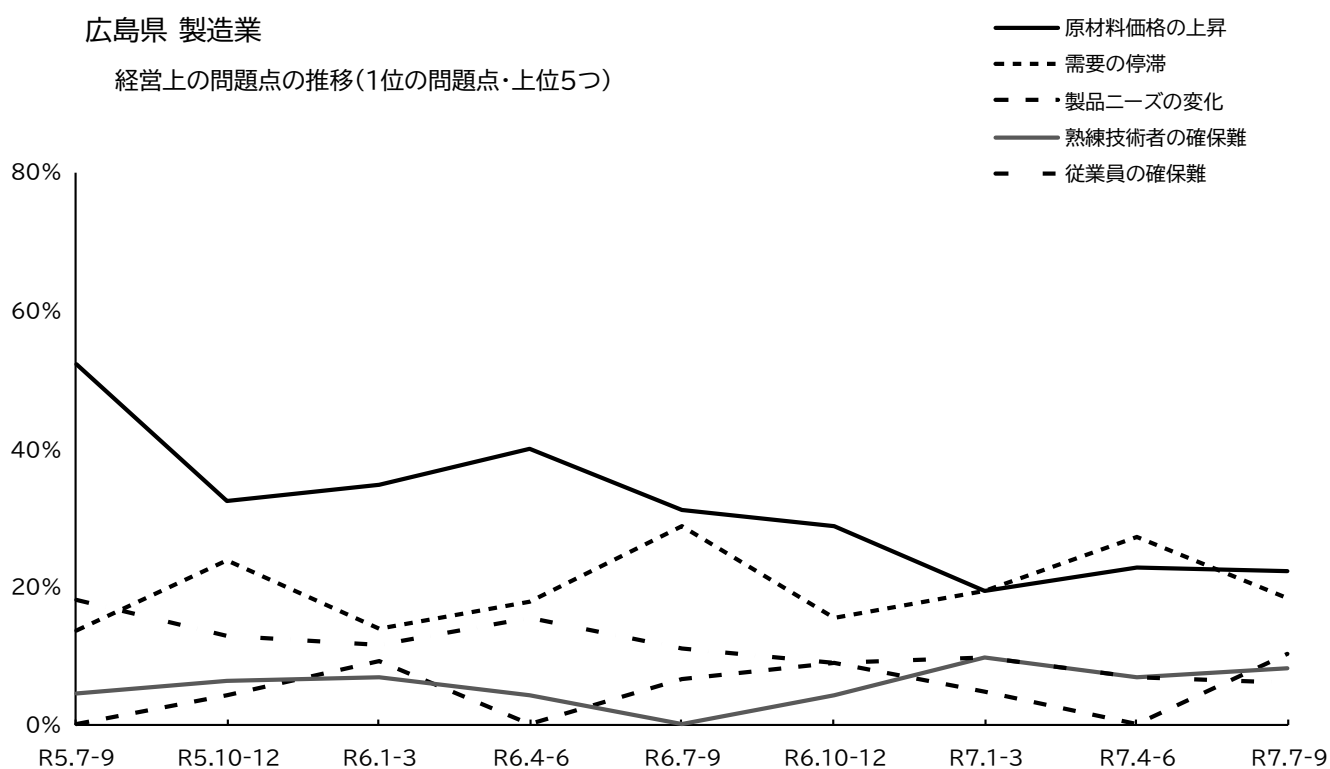


製造業（商工会地域）

4. 設備投資の状況



5. 経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）



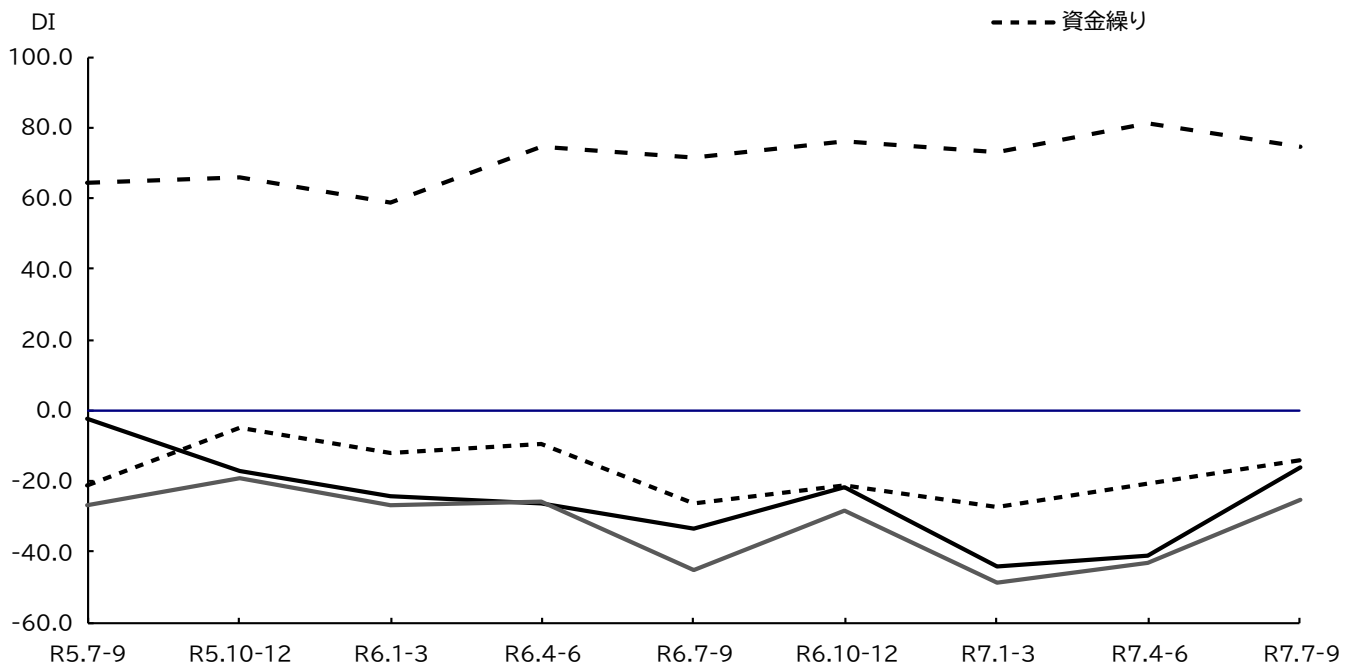
建設業（商工会地域）

1. 主要景況項目の推移 -前年同期比-

建設業 DI		(前期)	(今期)	(来期見通し)	
主要項目	R7.4-6	R7.7-9	前期との比較	R7.10-12	今期との比較
売上額 (完成工事額)	-40.9	-15.9	↗	-25.0	↘
材料仕入単価	81.4	74.4	↘	48.8	↘
採算	-43.2	-25.0	↗	-34.1	↘
資金繰り	-20.9	-14.0	↗	-11.4	↗

広島県 建設業

主要景況項目の推移 -前年同期比-



..... 企業のコメント

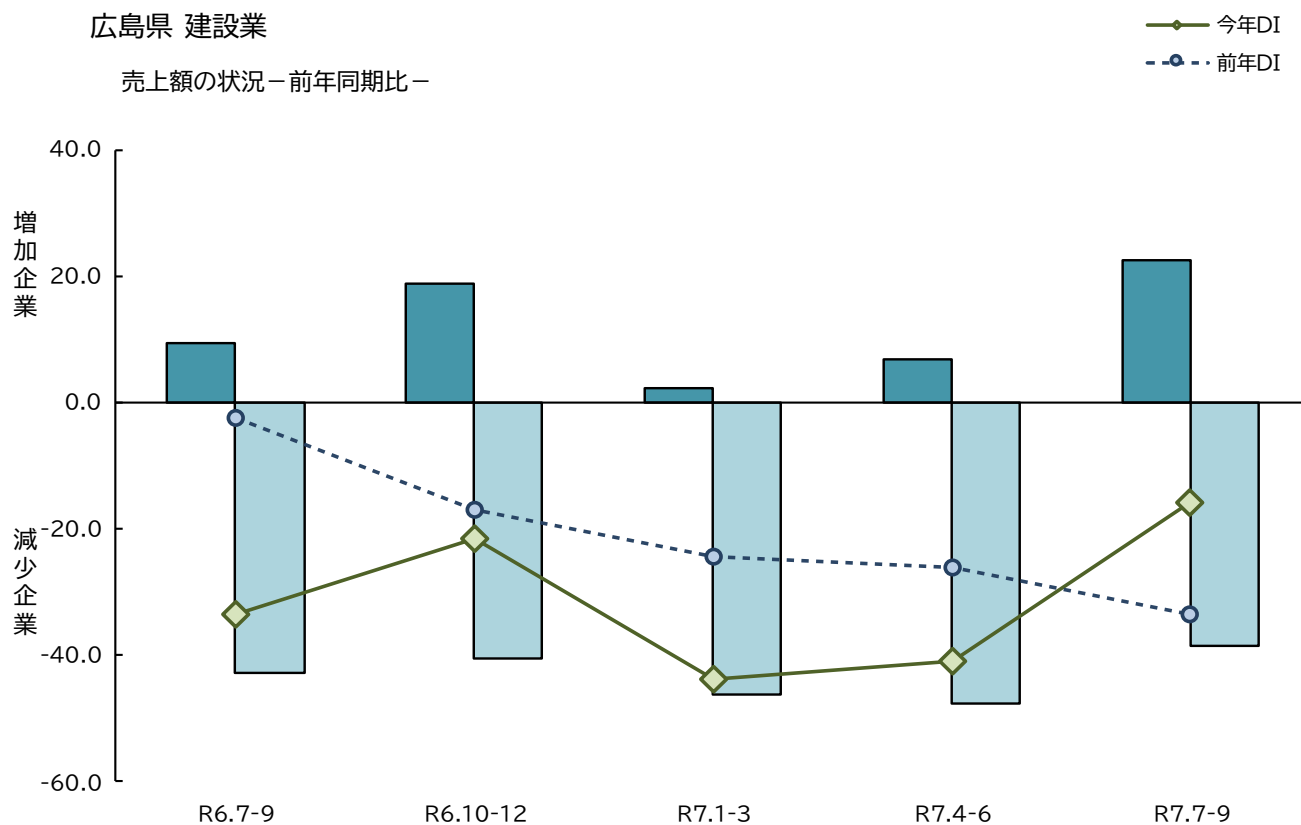
- ・ 原材料価格や外部人材の外注費は上昇傾向にあるが、現状ではその上昇分を幸いにして価格に反映出来ている。今後も価格に反映することを念頭に営業活動をしていく方針である。
- ・ 人口減少、高齢化により民間需要の停滞、異常な猛暑にとり小規模経営にとり不安材料多し。
- ・ 現状では公共工事の受注が好調であるが、公共工事に依存する体制は長期的な業況の見通しが非常に不透明であることから、民間需要をいかに取り込んでいくかが最大の課題である。
- ・ 個人事業での新規参入業者が増加基調にあり、依然として価格競争を強いられるケースが多くなっている。
- ・ 仕入価格も安定しており、今のところ横ばいになっています。
- ・ 新築工事が少なくなった。材料価格の上昇や土地が少ないのが原因か。
- ・ 当社の場合、一定の得意先様と地元の顧客様に対応する個人事業のため、常に工事内容と価格の具体的な説明を怠らないことが、業況の安定に繋がると思います。

建設業（商工会地域）

2. 売上額(完成工事額) -前年同期比-

広島県 建設業

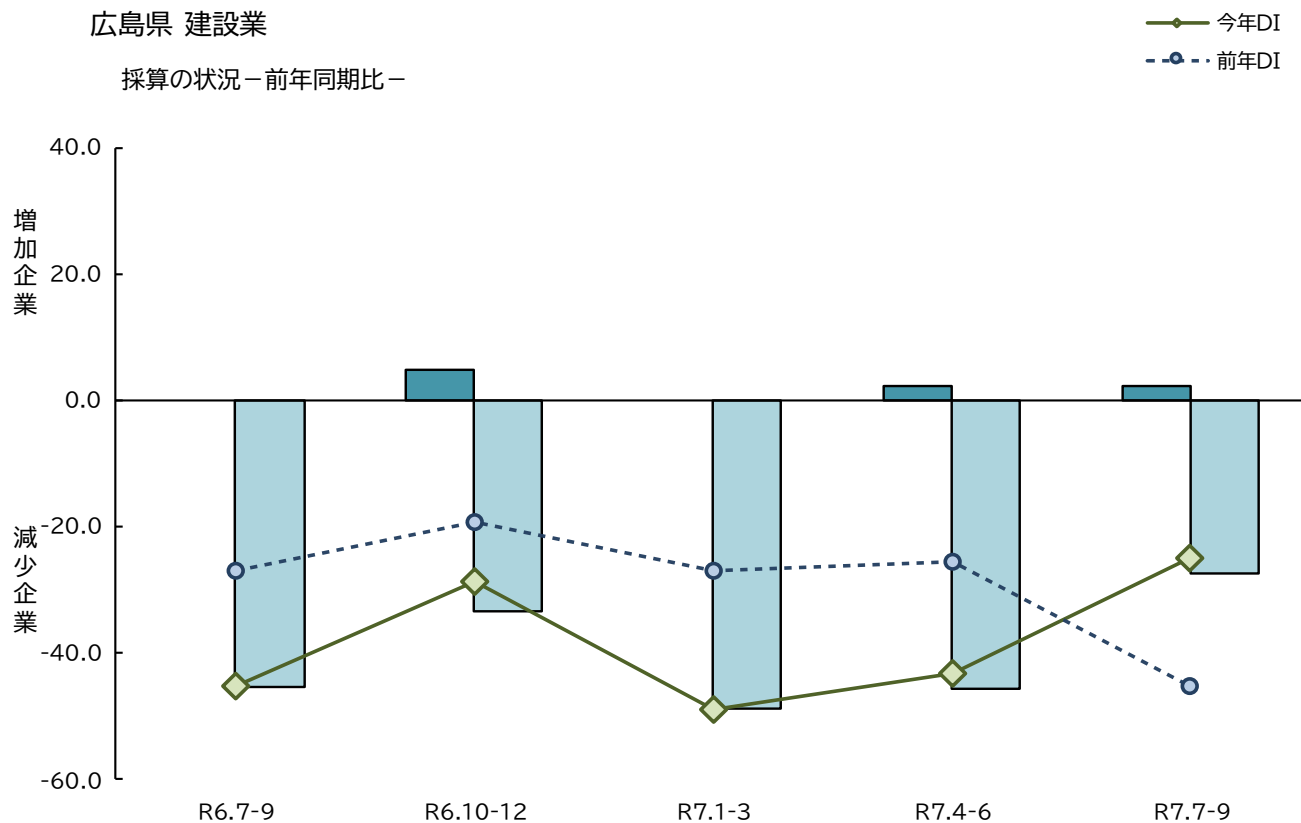
売上額の状況－前年同期比－



3. 採算(経常利益) -前年同期比-

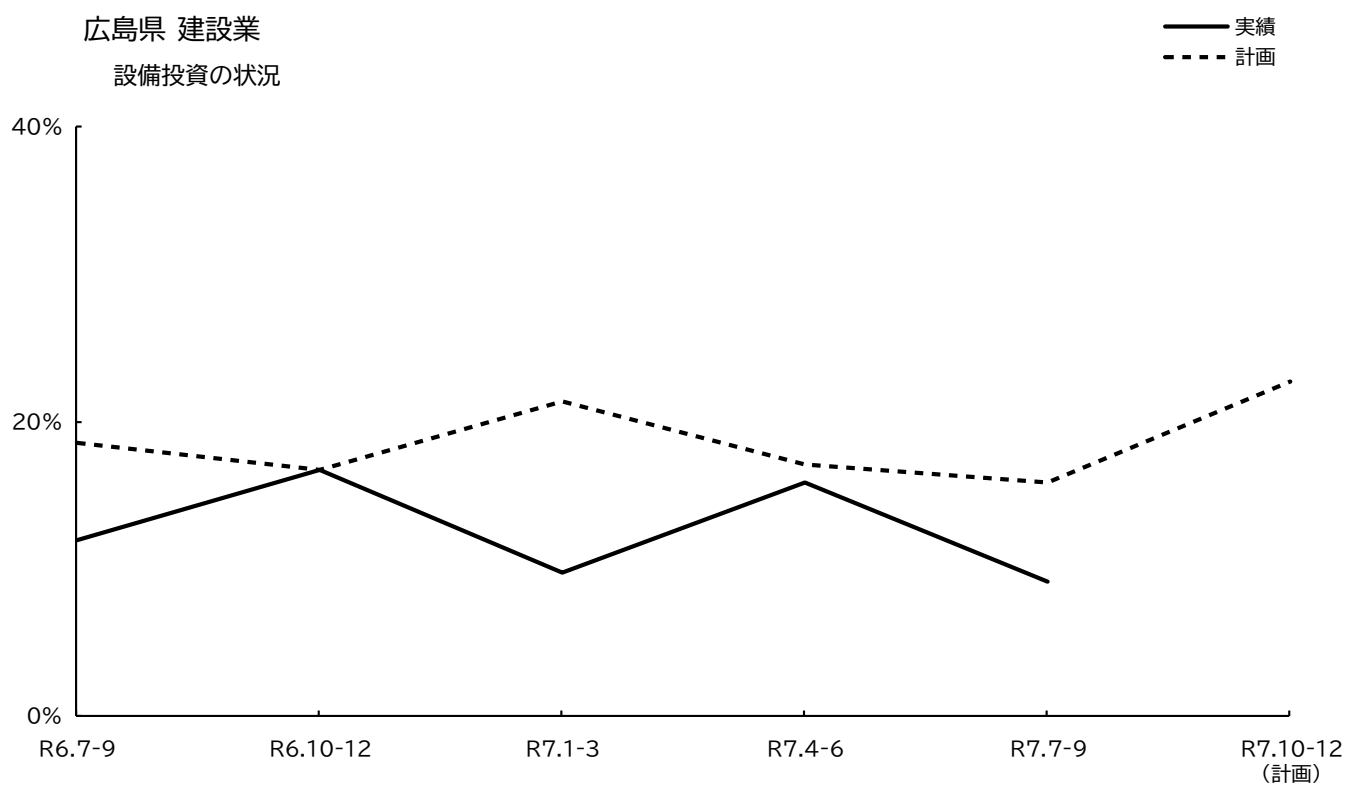
広島県 建設業

採算の状況－前年同期比－

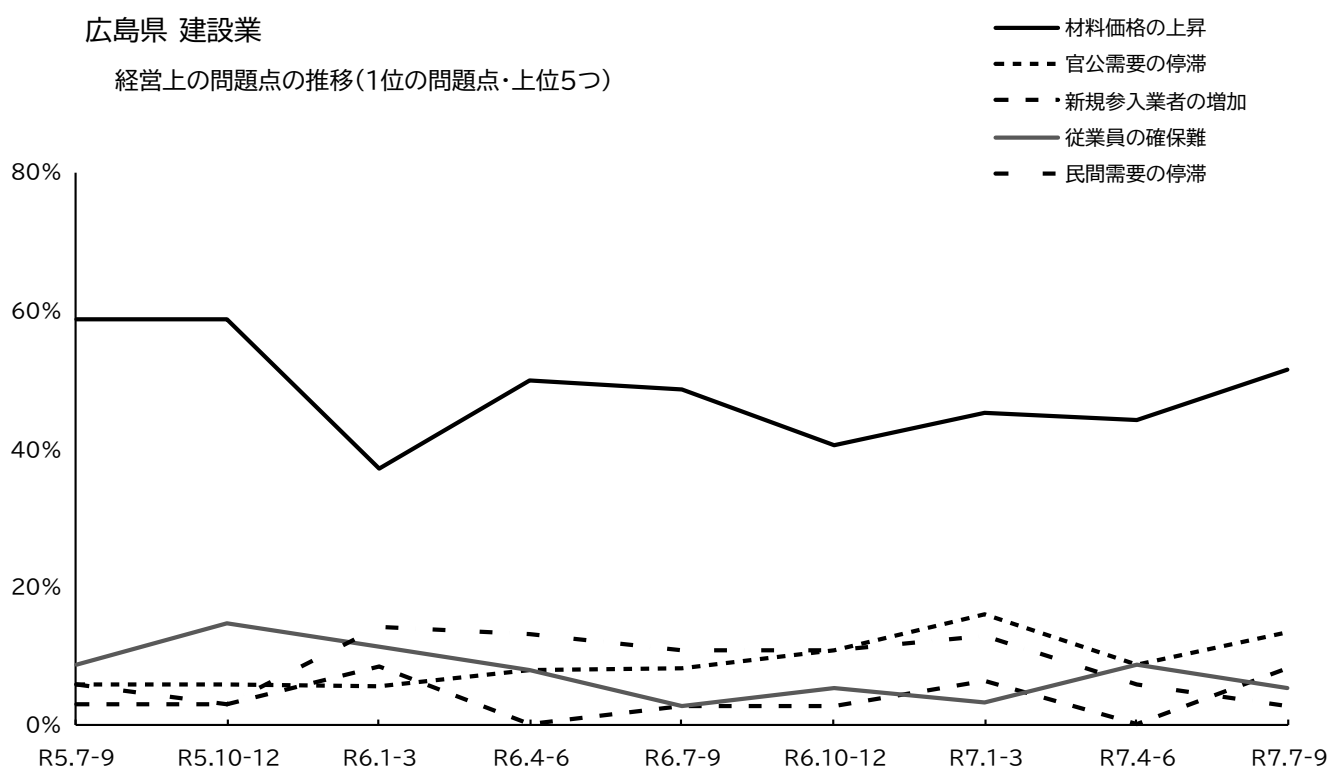


建設業（商工会地域）

4. 設備投資の状況



5. 経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）



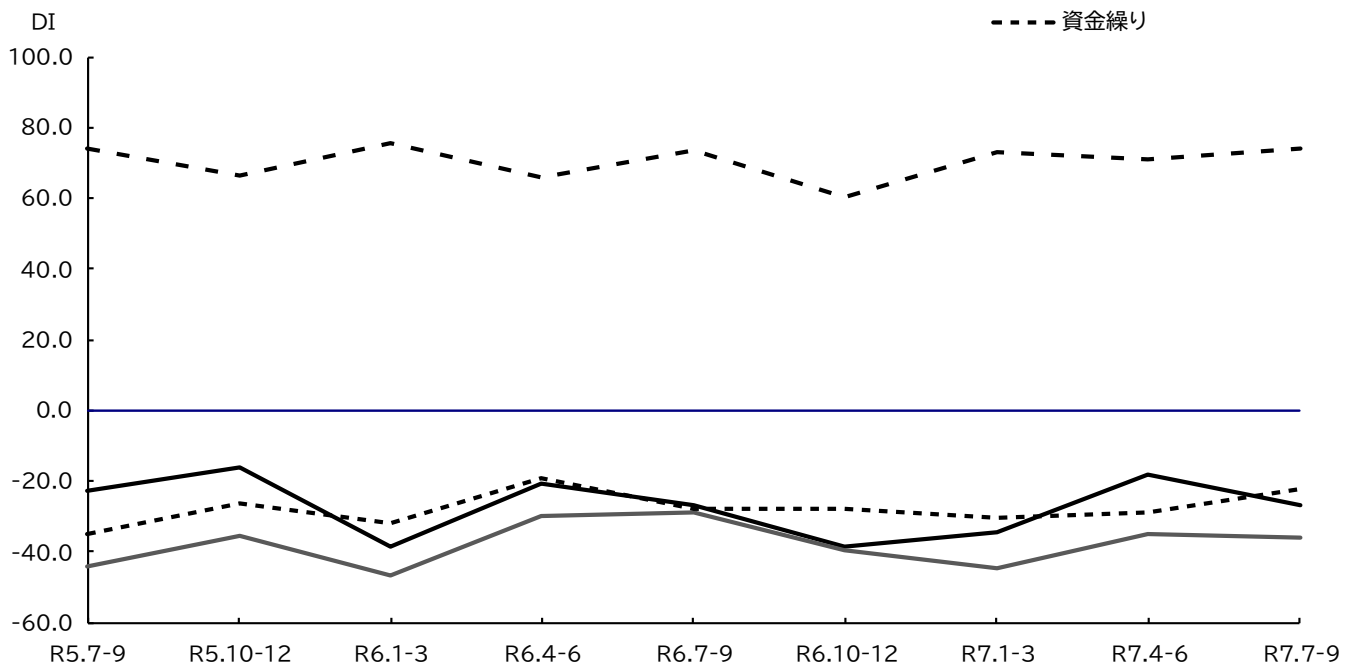
小 売 業（商工会地域）

1. 主要景況項目の推移 -前年同期比-

小売業 DI	(前期)	(今期)	(来期見通し)		
主要項目	R7.4-6	R7.7-9	前期との比較	R7.10-12	今期との比較
売 上 額	-18.2	-26.9	↘	-16.6	↗
商品仕入単価	70.8	74.3	↗	61.5	↘
採 算	-34.9	-35.9	→	-32.8	↗
資 金 繰 り	-28.8	-22.4	↗	-13.7	↗

広島県 小売業

主要景況項目の推移 -前年同期比-



..... 企業のコメント

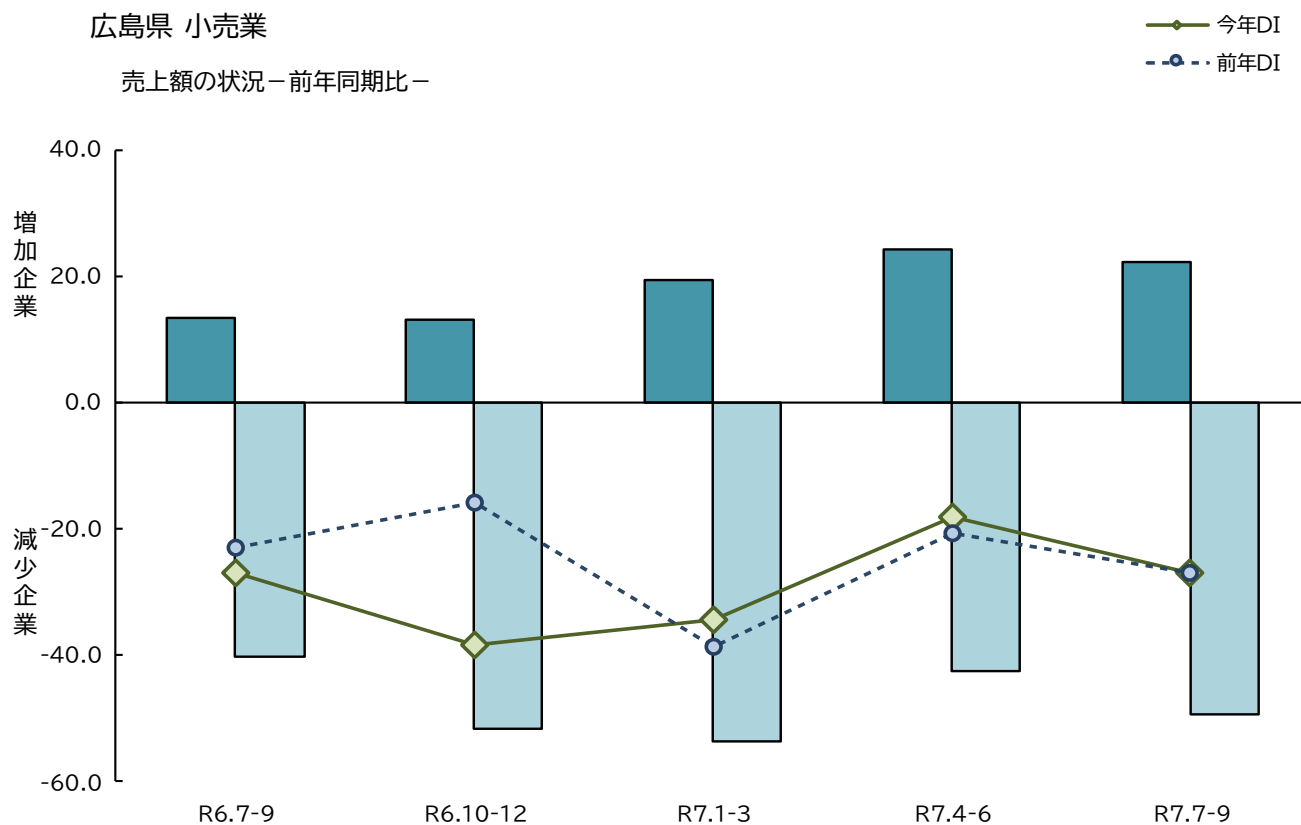
- ・ 相次ぐ値上げや物価高で、大型店に比べ、小規模店は、非常に厳しい状況。コストダウンとか対応しているが、売上好転には、至っていない。
- ・ 高齢者顧客の自然減、若い世帯のコンビニ・郊外商業施設への流失。合併による町内官公需の減少。従来型の小規模小売店は極端な客数減少で悩む。取引・流通のコスト高も追い打ち。状況は今後も加速しながら続く。
- ・ 商品の仕入価格上昇の為、値上げせざるをえないが、値上げすると売上が上がらず悪循環になっている
- ・ 店頭販売においては固定客は付いており、その客単価をいかに上げていくか、ということに主眼を置いて営業しているが、新たな商品等を新たに購入する、という需要は鈍い印象。
- ・ 売上の少ない小規模店としては、少し在庫を多めにしたりすると採算が悪化する。他店と比較できる何かを考えねばならない。
- ・ 客単価が減少、客数減少、商品は値上がりで八方ふさがり状態。例えば夏のTシャツを以前だったら二枚購入していたのが、一枚ずつ値上がりしているの一枚で我慢するといった感じで客単価が減少する。
- ・ 家電の販売網は、全国的に量販店とネット販売がひしめきあっており我々小売店はその隙間で商売している。顧客数は極端に減ってはいないもののその多くは高齢者で、新規客もあるがやはり高齢者で、売上は伸びない。

小 売 業（商工会地域）

2. 売上額 -前年同期比-

広島県 小売業

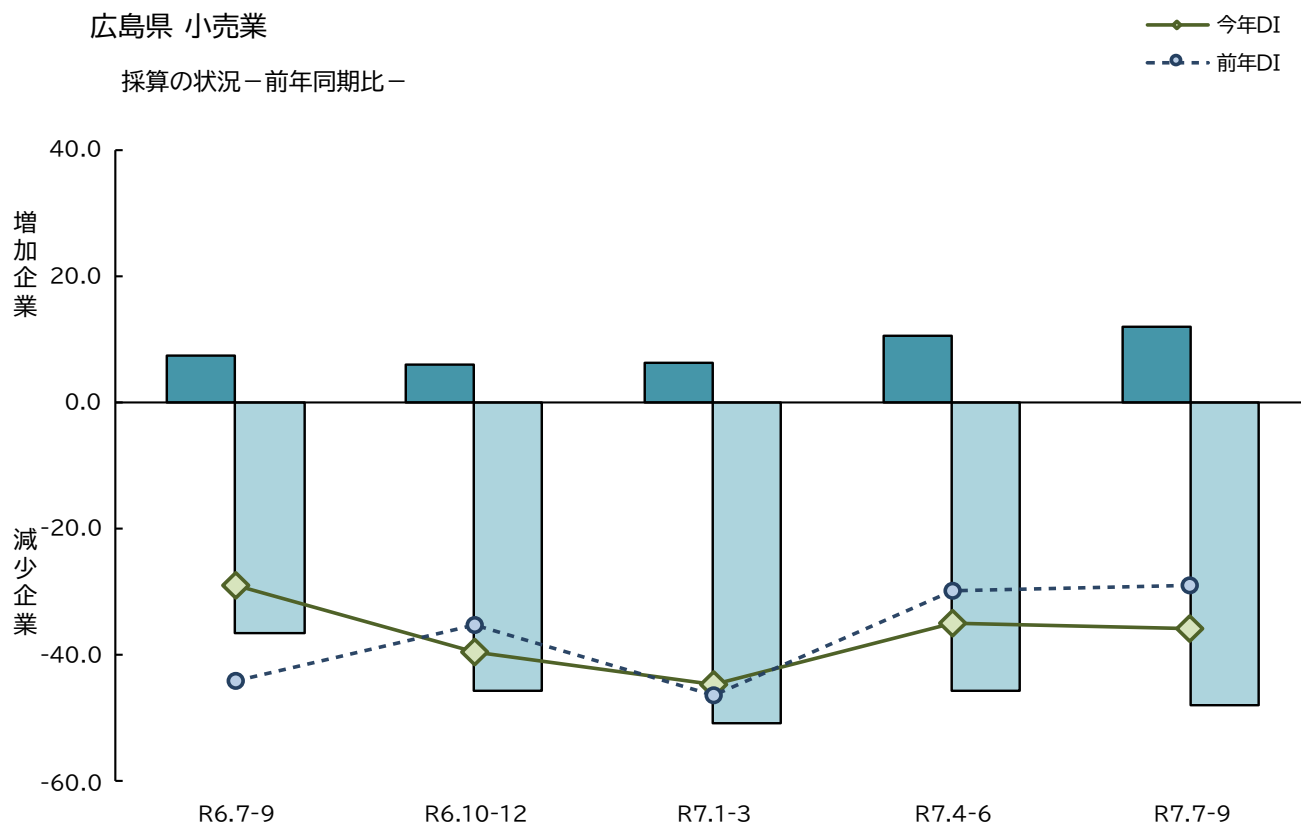
売上額の状況－前年同期比－



3. 採算(経常利益) -前年同期比-

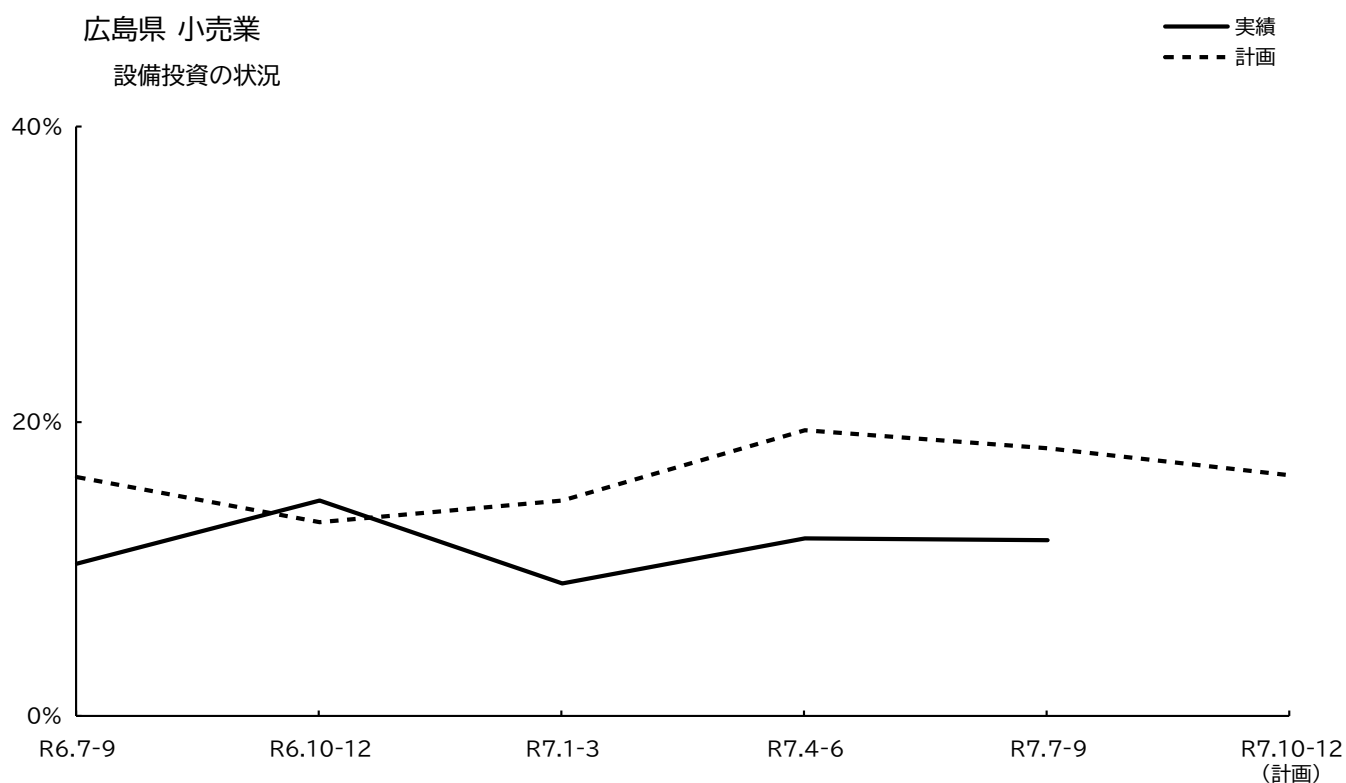
広島県 小売業

採算の状況－前年同期比－

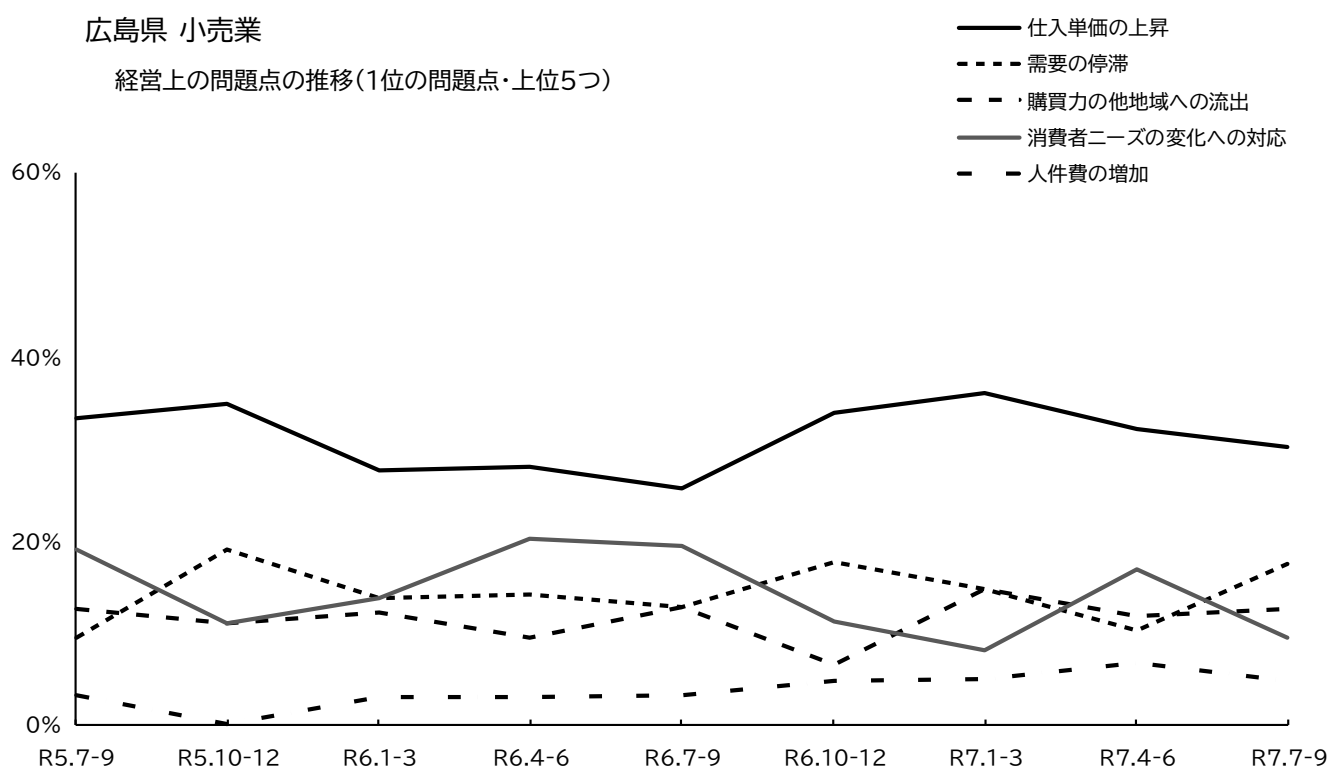


小売業（商工会地域）

4. 設備投資の状況



5. 経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）



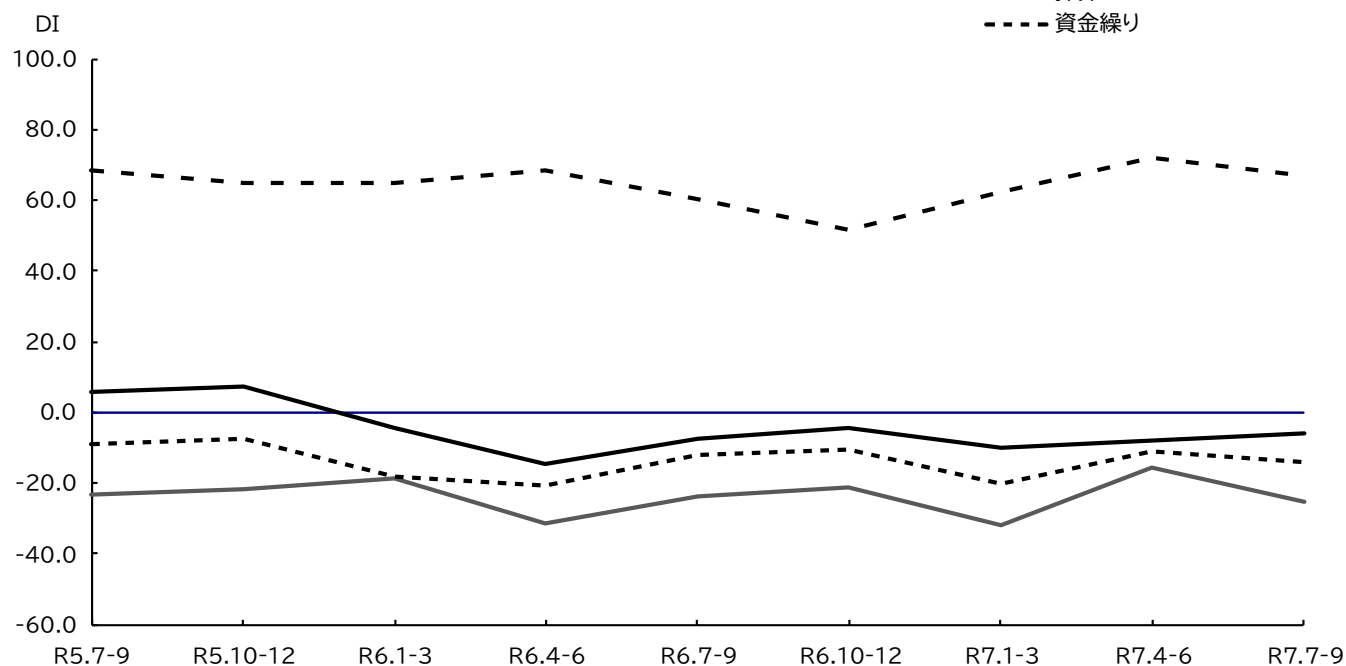
サービス業（商工会地域）

1. 主要景況項目の推移 -前年同期比-

サービス業 DI	(前期)	(今期)		(来期見通し)	
主要項目	R7.4-6	R7.7-9	前期との比較	R7.10-12	今期との比較
売上額	-7.8	-6.1	→	-14.0	↓
材料等仕入単価	72.1	67.2	↓	53.3	↓
採算	-15.6	-25.0	↓	-19.1	↑
資金繰り	-11.1	-13.9	↓	-21.8	↓

広島県 サービス業

主要景況項目の推移 -前年同期比-



..... 企業のコメント

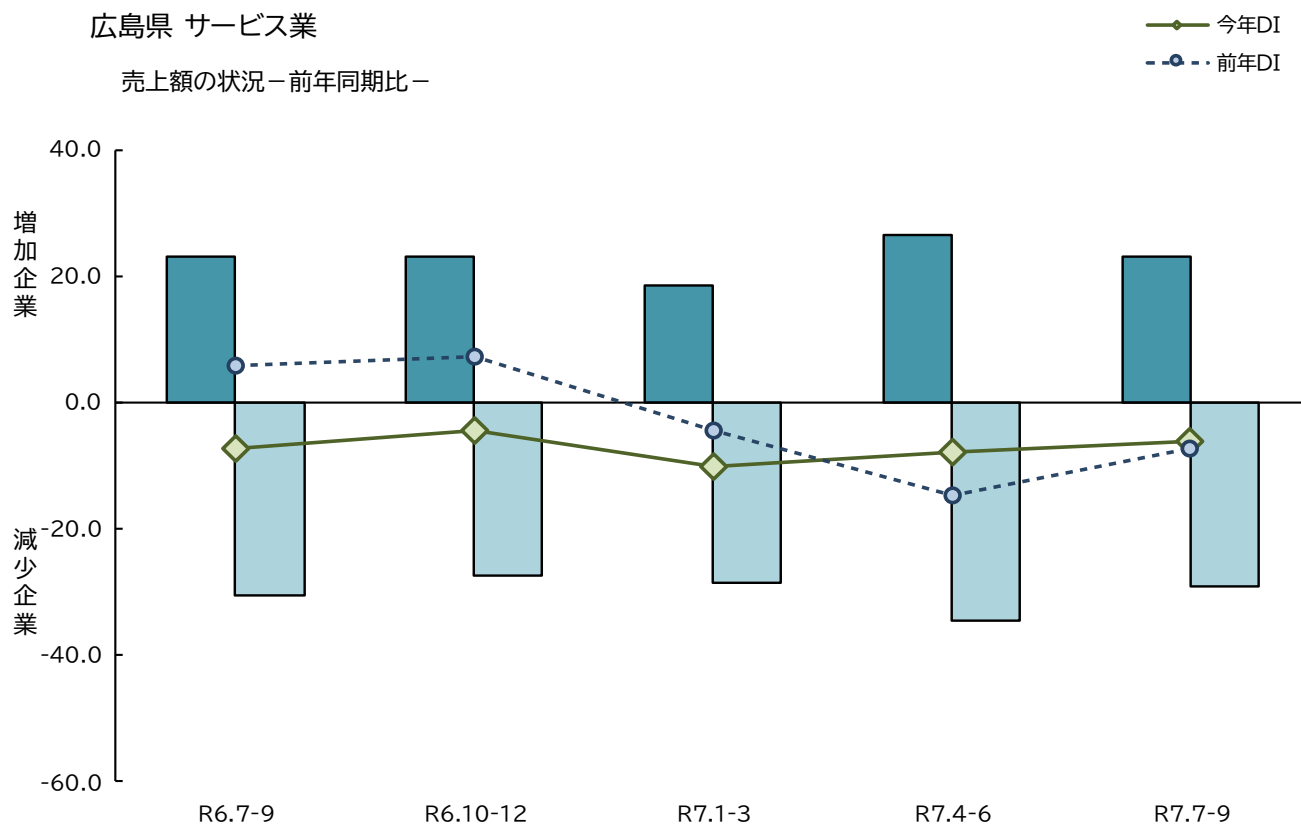
- ・ 去年の10月に値上げをしたのですが、それ以上に材料費や人件費の増加でなかなか利益を出していくのが大変な状況です。自分たちも含めスタッフの高齢化で長時間の労働が難しくなっています。
- ・ 前年に比較して売上は大きな変化はないが、以前に比べ外国人観光客の観光タクシーとしての利用が増加し、現金中心だった支払がキャッシュレス決済が主流となり、事務処理が複雑化している。
- ・ 店舗の修理及び機械の更新もしたいが、中々思う様に行かない。どうやって賃金を上げるか、良い方法が見つからない。
- ・ 現利用者の6割が保険検診利用で、実費診療を追加するのが難しい。また、初期サービスの施術時間延長が継続しており、時間短縮(実質料金値上げ)することは、利用者減少になりそう。
- ・ 施設老朽化に伴う修繕費用が高騰。財務状況への負担が大きい。その他、電気代等の固定費の増加により収益性が悪化。
- ・ 業況は不変であるが、仕入の高騰に対して価格転嫁出来ていない。
- ・ 材料等の原価が僅かながらも継続的に上昇しており、今後、利益率に影響する恐れがある。外注先としての塗装業者等の高齢化や廃業が増加しており、外注先の確保について懸念がある。

サービス業（商工会地域）

2. 売上額(加工額) -前年同期比-

広島県 サービス業

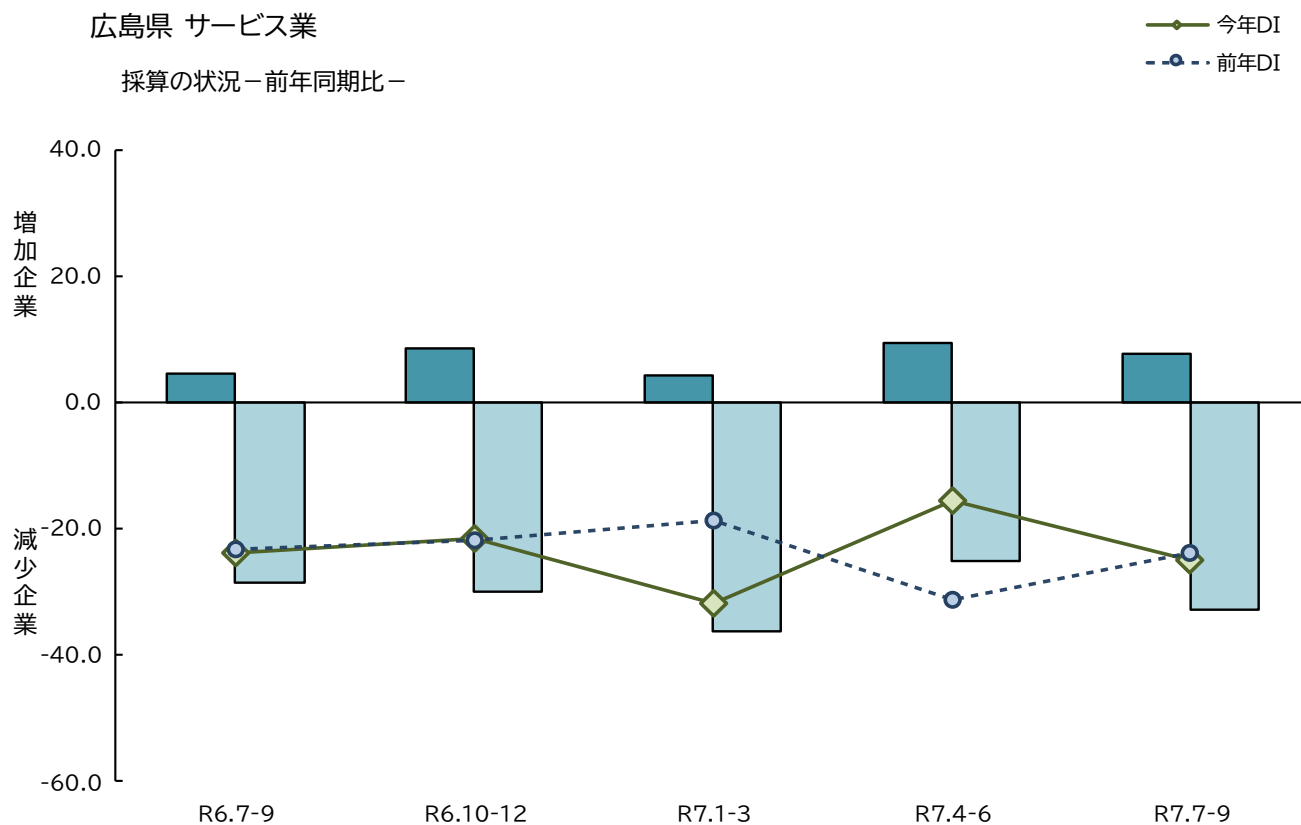
売上額の状況－前年同期比－



3. 採算(経常利益) -前年同期比-

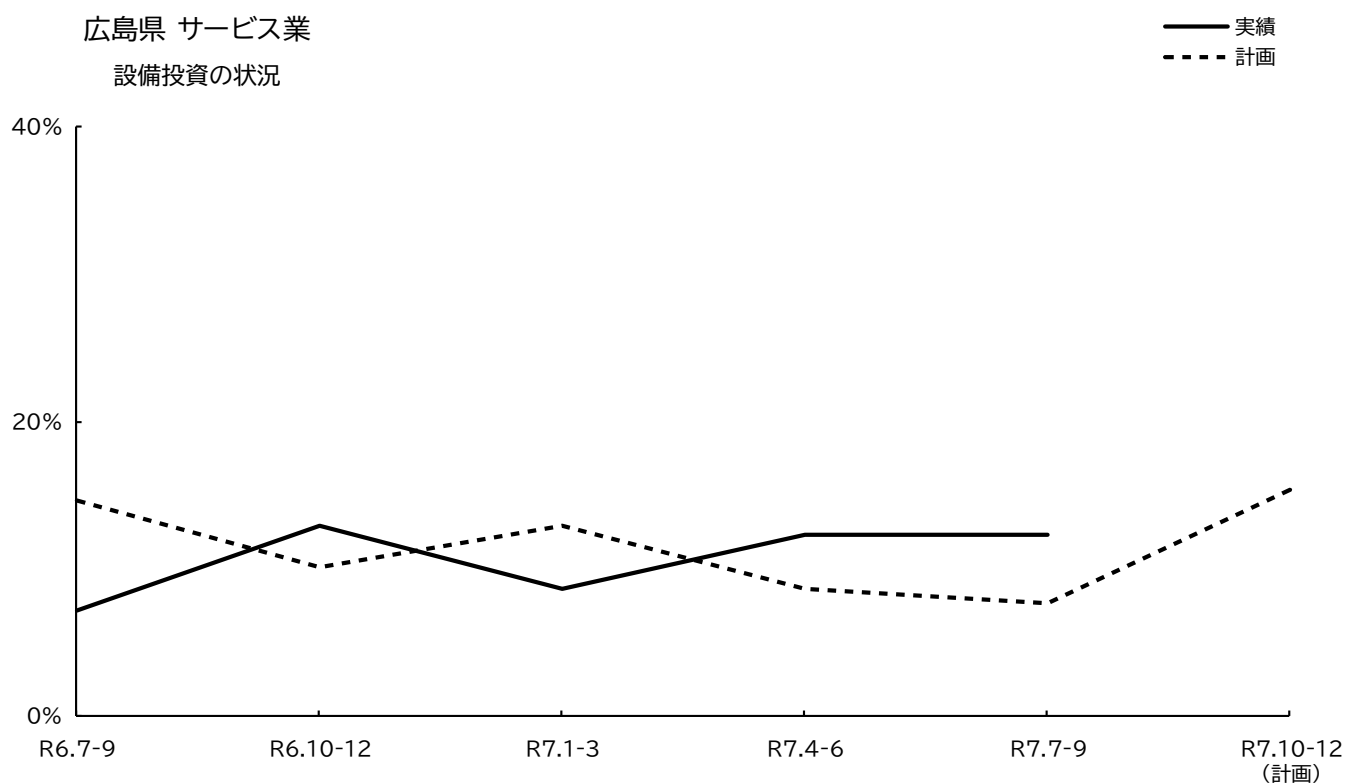
広島県 サービス業

採算の状況－前年同期比－



サービス業（商工会地域）

4. 設備投資の状況



5. 経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）

